

賑やかにドイツの雰囲気で

会員 森長京子



エーデルワイス・カペレの演奏

平成16年7月31日(土曜日)、PM6:30より04ドイツフェアが大人数のご参集のもと賑々しく開催されました。川久保純子さんの暖かい司会でプログラムは進行して行きました。ディナーはドイツフェアに因んでドイツ料理でした。鯨のマリネ、ソーセージ、ジャーマンポテト、ミートローフ、パン等々。お腹が充分満した時点でショータイムが始まりました。エーデルワイス・カペレの四重奏、演奏者の皆様はチロリアンハットでドイツ・オーストリアの雰囲気をたっぷり運んで下さいました。

湘南日独協会合唱団「アムゼル」の団員によるコーラスは去年よりメンバーが増えたように思いました。日頃の練習の成果を充分に発揮したいいいコーラスでした。楽しい時を過ごさせて頂きました。時はすでにPM8:30…解散時間になってしまいました。

終わりに例年の「福引き」が始まりました。川本美臣氏のご説明による福引きは、当たっても当たらなくても楽しい幕引きとなりました。みんなでビア樽ボルカを合唱して「さよなら」になりました。亦、来年のフェアを期待して散会しました。

湘南日独協会 2004 年度活動予定

■ 10月23日(土) 会員懇話会

地ビールパーティ

会場 ビアレ스토랑-湘南麦酒蔵

※4月に大変好評だった「湘南ビールを楽しむ会」を総りの秋にも計画しました。会員中心に今回はホイリゲ風のビアパーティをおこないます。賑やかに楽団も入ります。どうぞお楽しみに！申込は別途お送りする往復葉書でお願いします。会員外も参加可。

■ 11月17日(水)夕刻

ワイマールご一行歓迎会

11月中旬に姉妹協会であるワイマール独日協会の幹部とワイマール市長ご一行5名が来日し、鎌倉市長を表敬訪問されます。この機会に湘南日独協会では歓迎会を行うこととなりました。この歓迎会には会員はどなたでもご参加頂けます。いずれ詳細が決まりましたらお知らせいたしますが、この機会に日独の友好を深めては如何でしょうか。

■ 11月27日(土) 第36回例会

講演会 テーマ「水の力で物を動かす」

講師 宮川新平氏(株タカコ)

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2F ロータスホール

■忘年パーティ→11月にワイマールご一行の歓迎会がありますので今年には行わないことになりました。

湘南日独協会会報(Der Wind)

VOL. 6. NO. 5. 通巻35. 発行 2004. 9. 25.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9 中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第35回例会

【講演会】おもちゃの話

日時 9月25日(土) 午後1時30分～

講師 古橋昭子氏(おもちゃ研究家・会員)

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2F ロータスホール

講師からのメッセージ

私たちが育ってきた課程で、誰でも、おもちゃのお世話になったに違い無い。おもちゃに定義があるとは思えないがあえていえば、さわって、見て、造って、ときには壊して楽しむものということであろうか。最も初期のものは、石、木の葉、木の実、貝殻、虫、土砂、等々、日常的に身の回りで手軽に得られるものであったにがちな。次第にそれらに人の手が加わる。たとえば、バネ、歯車、カムなどを使うことによってより精巧になり、更に地域交流、科学の発展、産業の活性化などの要因が加わり今では、何がおもちゃなのか、その分類さえ困難である。携帯電話も、おもちゃなのかも知れない。変化の仕方も国、地方、時代によって様々である。まさに石ころからアイボまで変化しつづけるおもちゃの世界であるが、おもちゃは幾つになってもあきない。

今回は、私の持っているおもちゃの中からできるだけ沢山の各国のおもちゃを持参し、手作りも含め、数々のおもちゃを題材にした、楽しいひとときを持てればよいと思っている。

ドイツフェアに初参加

小島正喜

7月31日は真夏日の真最中。さぞかしドイツビールは旨かろう！と、協会の西澤理事のお誘いのままに初めてフェアに参加した。ドイツ事情もよく知らぬ私が……と些か緊張して入場してみると、会場には若い方やご婦人の参加も多く、舞台は明るく楽しそうだ。これならドイツビールで真赤になっても大丈夫と安心して仲間の待つテーブルに落ち着いた。こんな席では不思議と思わぬ人と出くわすもので、忽ち合唱団アムゼルのAさんから“あれっ！どうして貴方がここに？”と声をかけられ“やあー・やあー”とやっている裡に会は始まった。テンポよく進む催しを盛り上げたのは会場に響きわたった楽団エーデルワイス・カペレの演奏だった。金管とアコの懐かしい音色にのって次々とバリトンの美声で唱われる名曲を聞きながら、おそらくドイツの本場ではこんな時、あっちのテーブル・こっちのテーブルで“乾杯！乾杯！”の声があがり、やがて誰かが躍り出て“さあ皆さん・踊りましょう！”と始まるんだろうなと思っている裡に抽選会が始まった。いつも外れる自分、当たるものかと斜めに構えてワインを飲んでいると、なんと私の名前が呼ばれて当りくじ。会員でもない私が？と申し訳ないやら嬉しいやら。有り難く頂戴して開けてみると素敵な陶器の小皿一式。作者のメッセージまで添えられた心温まる作品を抱えて私は意気揚々と帰宅した。そして思った、“こんなことなら来年も出席しよう”と。

私とドイツとの出会いは今から70年も前のこと。神戸港から欧州へ向う照国丸にドイツに旅立つ親戚を見送った時から始まり、真夏の蚊帳の中で聞いたベルリン・オリンピックの実況放送を経て次第にドイツ映画とドイツ音楽に関心が広がり、私にとってはドイツがヨーロッパの総てだった。そして敗戦後は自分のことで精一杯。時にはドイツと鎬を削っての経済再建を競っての50年。果して今、世界における日独両国の



華やかに湘南日独協会合唱団「アムゼル」の演奏

立場はどうなったか？日独協会の会報No.34・三輪晴啓氏の講演を拝見して多くの示唆を感じた。ドイツはフランスと提携してEUを築き上げ、日本と中国は未だに何かことがあると唾み合う。何故だろうか？戦後50年、ドイツが培った善隣友好の知恵と努力を知るためにも日独協会は貴重な存在、と思う次第です。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

“ビヤ樽ポルカ”を共演

会員 大久保 明

恒例の湘南日独協会のドイツフェアが7月31日開催され今年も参加しました。200余名の参加者で会場は満席、岩崎会長のご挨拶では「エーデルワイス カペレ」のカペレのドイツ語の意味についての解説を頂くなど、一寸勉強も致しました。モーゼルワインで乾杯、料理は定番、各テーブルでは賑やかな談笑となりました。私のテーブルは合唱団「アムゼル」の仲間と一緒に、今回は特別に合唱にも参加された重野さんご夫妻の隣、デュッセルドルフ男声合唱団の指揮者のご主人と奥様がアムゼルの演奏に特別参加されました。久し振りにドイツ時代の生活や日独のさまざ

まな違いなど話が弾みました。

合唱団アムゼルは一昨年のドイツフェアの後結成され、梶井先生にご指導頂きワイマールからの使節団歓迎会そして昨年のドイツフェア更に年末のパーティーでの演奏など活動してきました。今年のドイツフェアではエーデルワイス カペレと「ビヤ樽ポルカ」と「天国にビールは無し」を共演、更にメンデルスゾーン、ブラームスの曲、日本歌曲とバラエティにとんだプログラムを梶井先生のソロを交えて演奏し盛大な拍手を頂いた。アンコール曲の準備が間に合わなかったのは残念と言うべきか。

エーデルワイス カペレはさすがプロ、特にドイツ語圏に深く関わりのある当夜の出席者の多くは懐かしいアルプス地方の曲にビールとワインの酔いも加わり最高に盛り上がった。そして、期待の抽選会、これが楽しみで参加される方も多いようです。今年は私も当たりました。しかし圧巻は梶井先生ご夫妻が共々宿泊券に当選した事ではないでしょうか。勿論お揃いでお出掛けになれるでしょうが、先にどちらへ？と皆さん気をもまれていたようです。

いつもの司会の川久保さんはじめ皆様の円滑な進行で今年は予定通りの時刻に閉会し、それぞれ大きな袋を下げて来年のドイツフェアへの期待を胸に家路へ。2005年は「日本におけるドイツ年」我々の湘南日独協会も何かお役に立ちたいものです。私も会員の一人として、また会報“Der Wind”の名付け親でもあり、合唱団アムゼル以外でも楽しい協会作りに参加したいと思っています。



クーグロックンの演奏